

公共施設マネジメント特別委員会行政視察報告

2月2日から3日にかけて、委員9名、執行部5名、事務局随員2名で、愛知県弥富市・碧南市を視察してまいりました。

■愛知県弥富市

【小学校の統合について】

弥富市は、愛知県の南西端、名古屋市から20km圏内に位置し、面積は約48km²、人口は約4万3千人です。全国的に少子化が進行する中、弥富市においても児童数が減少し続けており、将来さらに減少することが予測されています。

文部科学省は、小学校の適正規模について、児童が多様な価値観や考え方に触れながら人間関係を築き、集団の中で社会性や協調性を育むためには、一定規模以上の集団が必要であり、1学年2学級以上が望ましいとしています。

弥富市では、小規模小学校4校がいずれも全児童数100人未満、全学年単一クラスとなる状況であることや、アンケートで統合を望む声が多かったことなどから、この4校を統合し、令和10年4月に新たな小学校を開校することが決定されました。

新たな小学校は、既存の小学校を大規模改修・増築して整備することとし、建設コストの抑制や工期短縮を図ることができました。一方、同校敷地は海拔が低く、水害時の安全性を懸念する声も上がっていますが、校舎のかさ上げや止水板の整備など、防災面に配慮した対策を講じ、市民の理解を得ていきたいとのことでした。

統合に伴い、スクールバスを導入することとし、バス停候補地を保護者とのワークショップで検討しました。なお、スクールバス導入の課題としては、財政的負担のほか、学年によって下校時刻が異なることによる運行ルートの設定、運転手の確保などがあり、現在検討中とのことでした。

本市は弥富市に比べ面積が広いため、同様の取組を行うことは容易ではありませんが、少子化という共通の課題に対し、教育環境の質の維持を目的に規模の適正化を進めていく点については、大いに参考となりました。



弥富市

■愛知県碧南市

【保育園の統合について】

碧南市は、愛知県の南西部、名古屋市から40km圏内に位置し、面積は約37km²、人口は約7万2千人です。

碧南市では、同一小学校区内にある公立の幼稚園と保育園を統合し、令和10年度に民間の認定こども園を開園する計画が進められています。

この計画に至った背景には、施設の老朽化や園児数の減少に加え、3歳未満児の保護者の就業要件が緩和されたことによる保育ニーズの増加が挙げられます。

公立で整備する場合、施設整備費や運営費は全額市の負担となりますが、民間で整備する場合は、国・県の補助金の対象となることから、市の財政状況を考慮し、民間による整備を進める方針となりました。用地は、土地開発公社が所有している集合保留地を活用することです。

碧南市は交付税不交付団体であるものの、今後大幅な歳出増と歳入減が見込まれており、財政調整基金が令和10年度末には枯渇する可能性があることから、令和7年9月に財政非常事態宣言を発出しています。このよう

な背景も、本計画を検討する要因の一つとなっています。

また、碧南市が南海トラフ地震の被害想定区域に含まれることから、防災対策が不可欠であり、地域の方の一時避難所としても活用できるような施設を整備することでした。

本市と比べ、碧南市では園の人数規模が大きく数は少ないといった違いはあるものの、施設の老朽化や園児数の減少といった状況は共通しており、本市の保育園の統廃合を検討する上で、大いに参考になりました。



碧南市

■視察を終えて

今回視察した両市は、積極的に公共施設の統合を進めており、参考とすべき点が多くありました。また、両市とも災害を考慮した施設整備を行っており、今後の施設整備において必要不可欠な視点であることを再認識しました。

今回の視察事項については、今後の委員会の取組に生かしていきたいと思えます。